

ロシア連邦大統領
ウラジーミル・プーチン殿

2022年2月28日

全日本年金者組合

中央執行委員長 杉澤隆宣



ウクライナ侵攻に断固抗議するとともに 軍事作戦を直ちに中止し、即時撤退を求める

2月24日、ロシアはウクライナへの軍事侵攻を行った。ウクライナ東部地域の住民を守るためとしているが、このことは、明らかに国連憲章に違反する行為であり、断じて容認できない。すでに戦禍はウクライナ全土に広がり、ロシア軍はチェルノブイリ原発を掌握し、ウクライナの首都キエフに迫っている。

ロシア国防相は「民間人は脅かさない」としていたが、軍事施設への攻撃にとどまらず、民間人の犠牲者も出し、多くのウクライナの人々は国外へ脱出するなど、基本的人権や生存する権利等が脅かされている。軍事的行為はいかなる理由があろうとも、許されるものではない。

また、プーチン大統領が24日、「ロシアは、今や世界で最も強力な核保有国である」「ロシアへの直接攻撃は侵略者の壊滅と悲惨な結果につながる」と述べ、核兵器による威嚇・脅迫を行ったことは重大であり、核兵器のない世界をめざす流れに対する挑戦であり、見過ごすことはできない。

年金者組合は結成以来33年、組合の綱領に基づき、「憲法の理念を守り発展させ、より自由に、より豊かに生きて行ける社会」をめざして運動してきた。また綱領は、「核兵器のない平和・中立の日本を建設し、美しい地球を子や孫に残す」とも謳っている。

戦争を体験した組合員も数多くおり、戦争の悲惨さを身をもって体験している者として、また、広島と長崎への原爆投下を受けた日本国民として、現下の、プーチン政権によるウクライナ侵攻と核兵器使用宣言に対して強く抗議し、即時撤退とともに、ウクライナの人びとの人権を尊重し、平和的手段による問題解決を行うよう、ロシア政府に強く申し入れる。